

2016 年 10 月 11 日

共生社会特論 2016 年度 レポート課題（久木田）

下記の要領でレポートを作成・提出しなさい。

記

- 課題：テクノロジーと人間の共生に関連して、現在生じている、あるいは将来に生じることが懸念される問題を取り上げて、レポートを作成する。レポートは事実に関する記述と自分の意見の両方を含んでいなければならない。公刊されている書籍を少なくとも一冊、参照すること。下記のリーディング・リストにある本を参考にしなさい（必ずしもこの中から選ばなくても良い）。
- 形式・分量：自由。ただし必ずホッチキス（ステープラー）で綴じること。
- 〆切：2016 年 11 月末日
- 提出方法：授業の際に教室で久木田に手渡す。あるいは情科棟 212 室に届ける（その場合は事前にアポイントメントを取ること）。
- 評価のポイント
 - － 題材がテーマに沿っているかどうか
 - － 事実についての記述が正確で十分かどうか
 - － 書籍への参照がテーマにふさわしく、かつそれについての理解が正確であるか
 - － 自分の意見が根拠とともに明確に述べられているか、その意見は事実を踏まえた適切なものであるか
- 注意事項：参考にした文献・ウェブサイト等は必ず明記し、直接引用する際は、引用であることを明示しなければならない。直接引用の分量は本文全体の 10 パーセントを超えてはならない。
- リーディング・リスト
 - － 新井紀子『コンピューターが仕事を奪う』
 - － 井上智洋『人工知能と経済の未来—2020 年雇用大崩壊』
 - － レイ・カーツワイル『ポスト・ヒューマン誕生—コンピュータが人類の知性を超えるとき』
 - － アンディー・クラーク『生まれながらのサイボーグ』
 - － ウェンデル・ウォラック『人間 VS テクノロジー』
 - － ジョン・マルコフ『人工知能は敵か味方か』
 - － ジェイムズ・バラット『人工知能—人類最悪にして最後の発明』

- 岡田美智雄, 松本光太郎他『ロボットの悲しみ』
- ピーター・W・シンガー『ロボット兵士の戦争』
- ピーター＝ポール・フェルベーク『技術の道德化』
- 西垣通『ビッグデータと人工知能』
- ラメズ・ナム『超人類へ！』
- ドナルド・A・ノーマン『誰のためのデザイン』
- ゲルト・ギーゲレンツァー『リスク・リテラシーが身につく統計的思考法』
- Sherry Turkle, *Alone Together*
- Sherry Turkle, *Reclaiming Conversation*
- Colin Allen and Wendell Wallach, *Moral Machines*
- Patrik Lin et al, *Robot Ethics*
- David J. Gunkel, *The Machine Question*
- Luciano Floridi, *The 4th Revolution*
- Michael Anderson and Susan L. Anderson, *Machine Ethics*

以上